

研究報告

2015/04/24 M2 厚田耕佑

実施内容

繊維芽細胞 17(金)

解凍と培地交換の2項目のレクチャーを受けた。残りは凍結のレクチャーが残っており、それで一連の流れのレクチャーが完了する。

カウントの線形性評価 18(土)

フォトンカウントの線形性についての確認を行った。サンプリング周波数8MHzで10000サンプリング間隔中に何カウントされたかを表すグラフとなっている。実際に取得されるであろうフォトンカウント(1000/10000clock)付近では線形性が保たれている。整数値であるため、カウント値が2桁より小さくなってくると、取得するタイミングによってカウント数が異なって線形性が保たれなくなる。

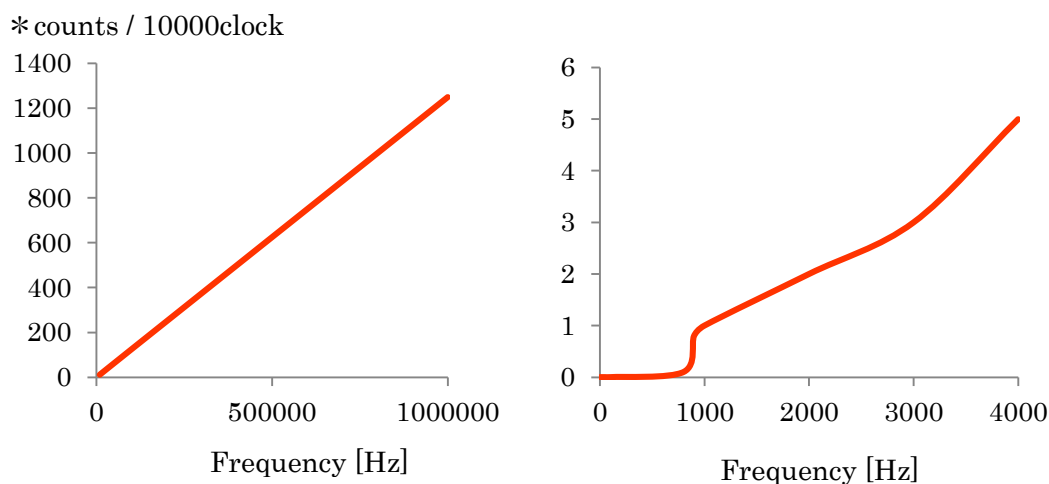
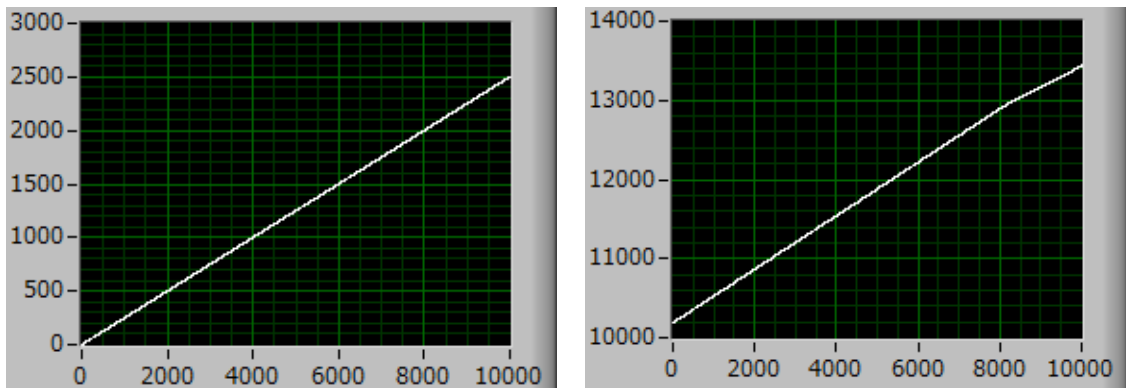


Fig1. Count numbers

取得データの同時取得および連続性の確認 22(水) 23(木)

信号の同時取得に関しては、同じデータを取得した際のデータ間の差(例えば 1ch-2ch)が一様に0になっていたため、異なるチャンネルごとに同じタイミングでデータの取得が行えていると考えられる。一方で、データの連続性に関しては連続取得しているデータの中に正しいデータでないものが含まれていることがわかった。この問題を解決する。



連続データ(1回目, 2回目)

今後の予定

線維芽細胞：一連のレクチャー完了⇒実際に行う.

小型化：連続データの中に含まれるエラーの解決

他の問題がないか検討, 光学系組み直し? など